

	項 目	状 態
身 体	麻 痺	なし
	関 節 の 動 き	膝に痛みあり制限少しあり
	褥 瘡 の 有 無	なし
	視 力	手元の字は見える
	聴 力	大きめの声で話せば聞こえる
動 作	寝 返 り	手すりにつかまりながら行う
	起 き 上 が り	手すりにつかまって起きる
	立 ち 上 が り	何かにつかまれば立てる
	座 位 保 持	出来る
	立 位 保 持	つかまればできる
	歩 行	時々伝い歩きをする
	移 乗	つかまりながら行う
	移 動	不安な時は何かにつかまりながら行う
食 事	食 事 行 為	自立
	水 分 の 状 況	問題なし
	嚥 下 の 状 況	問題なし
排 泄	排 泄 行 為	たまに失敗するためリハビリパンツを使用してトイレで行う
	尿	尿意あり・時々間に合わない
	便	便意あり・ほとんど失敗はない
整 容	洗 面 行 為	濡れタオルで拭く
	体 を 洗 う 行 為	自分で行うが、洗えているか確認できていない
	口 腔 ケ ア	ご飯を食べた後は準備があれば必ず、磨く。
	洗 髪	自分で行うが、ほとんど湯上りに髪は濡れていない
	整 髪	水で髪を濡らし手で整える
	爪 切 り	デイに来た時に確認し、伸びているようなら切る
	衣 類 着 脱	季節に合ったものは選択できない時がある
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	日 常 の 意 志 決 定	出来るが、話が理解できないことが多い
	指 示 へ の 反 応	常に笑っていて理解しているかは不明
	記 憶 ・ 理 解	曖昧な時が多く、理解できていないことを取り繕う様子もある
	意 志 の 伝 達	いつもニコニコしている

	項 目	状 態
調理	献 立	できない
	切 る	指示があればできる
	炒める・煮る	指示があればできる
	味 付 け	できない
	盛 り 付 け	一緒に行えばできる
洗濯	洗 う	指示あればできる
	干 す	一緒に行えばできる
	た た む	一緒に行えばできる
	片 付 け る	自分の部屋に持ち込み、所かまわず置く
買い物	品 物 選 び	同じものを選ぶ、又は選べない
	支 払 い	できない
	購入品の片づけ	指示をしないと自分の部屋に持ち込む
掃除	掃 く	できるが箒を持ち帰る
	拭 く	指示あればできる
	整 理 整 頓	できない
縫物補修	糸 通 し	できない
	縫 う	できない
	修 復	できない
	針 の 管 理	できない
金銭管理	日常の金銭管理	家族
	通 帳 管 理	家族
	支 払 い	家族
電話	掛 け る	できない
	出 る	出ることがあるが、理解していない
通院	受 診	家族が付き添う
	処 方 箋	あり

## 事例の概要

### ① 基本情報

氏名	花村 ナヲ
生年月日	昭和5年5月15日 89歳
性別	女性
要介護度	要介護2
障害高齢者自立度	A1
認知症高齢者自立度	Ⅱb

### ② 生活状況

新島にて、3人姉弟の長女として生まれる。民宿を営む両親の手伝いをしている時に、夫と知り合い25歳の時に結婚する。結婚後は、下宿屋を営み学生を受け入れながら息子ふたりを育てた。子供が独立をしたのをきっかけに下宿屋を辞め、近所のスーパーにパートに出ていた。夫は会社員で、定年まで勤め定年後に、夫婦で旅行に行くことを楽しみにしていたが、定年後直ぐに病気になり他界してしまう。長男が結婚をして、同居を始めてから、夫と行くはずだった旅行に妹を誘って出かけるようになる。その頃に歌の教室にも通い始めた。80歳になると妹が体調を崩し、旅行には出かけなくなるが、歌の教室には85歳まで毎週通っていた。ある日、大きな荷物を持って教室に行こうとすることに長男の嫁が気づき、声をかけると「妹と旅行に行ってくるから」と言う。妹は既に他界しており、そのことを伝えると混乱する。その後も歌の教室に行く準備が上手くできなくなり、受診をするとアルツハイマー型認知症と診断される。現在は、教室もやめているが、通っていると思っているため、歌の本を探していることが週に2～3回ある。最近は衣類を散らかすことが増え、お嫁さんが片付けている。

### ③ 健康状態等

アルハイマー型認知症の診断を受けている。長谷川式13点

服薬：抗認知症薬・漢方薬\*自己管理ができないため、お嫁さんが毎食時に渡す

### ④ 趣味・好む活動

カラオケ：町内会の歌の教室に通っていた。

下宿屋を営んでいたため人の世話をすること・料理も上手

### ⑤ 家族構成

長男夫婦 孫1人と4人家族

### ⑥ 使用福祉用具

玄関にタッチアップ

## ⑦ 生活習慣

民宿の手伝いをしていた時から朝一番に、玄関の掃き掃除を行っていた。

そのため、現在も掃除はナヲさんが行っているが、ほうきを自分の部屋に持ち込んでしまうので、お嫁さんが気づかれないように片付けている。

いつも笑顔が絶えない下宿屋のおかみさんだった。

## ⑧ サービス利用状況

デイサービス週3回

ショートステイ週に2泊3日を月に2回

福祉用具レンタル

## ⑨ サービス利用中の様子

### デイサービス

デイサービスでは、帰宅時間になると思い出したように、歌の本がないと職員に訴え「あなた知らない？無くなっちゃたのよ。誰かが持っていったのかしらねえ」と、何度も笑いながら言い、職員につきまとったり、周りの利用者を巻き込みながら、探したりするため不安にってしまう。入浴は、「家で入るからいいのよ」と笑いながらも拒否するが、「温泉に行きましょうか」と言葉かけをすると、スムーズに入れる日もある。また、荷物を気にすることも何度かあり、浴室から出ると直ぐにバッグと衣類の確認をしながら、荷物を散らかしてしまい、着替え用の服が分からなくなるため、支援に入ろうとすると笑って「大丈夫だから」と支援を拒否することが増えている。

### ショートステイ

初回から泊まることに抵抗はなかったが、夕食が過ぎた頃に妹を探す発言が聞かれる。荷物が手元がないと探す、あればよく休まれている。起床後より、ほうきと玄関を探し、他者のお部屋に入ってしまうので、ナヲさん専用のほうきを用意して、掃除をする場所を決めた。家族から退所日に入浴を希望されているが、浴室に誘う時の言葉かけを工夫しないと笑って、拒否する事が多く、デイサービスと情報共有しながら支援を行っている。